法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-16

【特集】第34回国際労働問題シンポジウム : COVID-19危機からの持続可能な回復と技能開発 : Reskilling / Upskilling : ILO総会出席者コメント : 労働者の立場から

GONO, Akiko / 郷野, 晶子

(出版者 / Publisher)
法政大学大原社会問題研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
Journal of Ohara Institute for Social Research / 大原社会問題研究所雑誌
(巻 / Volume)
763
(開始ページ / Start Page)
23
(終了ページ / End Page)
24
(発行年 / Year)
2022-05
(URL)
https://doi.org/10.15002/00025797

ILO 総会出席者コメント ――労働者の立場から

郷野　晶子*

ILO の労働者側理事の郷野です。このような機会をいただいて感謝申し上げます。

ILO からの基調講演に加えて，日本の 2 つのご報告は非常に興味深く拝聴いたしました。とくに権利としての生涯学習はなかなか実現できないのですが，そのことに対する重要性は，労働者側としても強く共有しております。

本題に入る前に，2021 年の ILO 総会第 1 部で採択された COVID-19 に関する決議文書について，一言だけ感想を申し上げたいと思います。労働者側としては，COVID-19 に関する政労使合意のうえでの文書というのを切望しておりましたが，対面の会議ではなくなり，時間的制約もあるなかで，どうやって合意に結び付けられるか，正直，危惧しておりました。ですが，三者の協力があり，合意に結び付けられたということを，評価しております。とくに社会契約として掲げてきた要求である雇用創出，労働者の権利，普遍的な社会保護，平等・包摂が，この文章のなかに含まれたことを歓迎しております。

次に，本日のシンポジウムのテーマであるスキルと生涯学習についてお話しします。先ほど申し上げましたように，労働者側としては非常に重要視しております。また，これに関しても労働者の公正な移行――「公正な移行」という言葉は，一般的には環境問題や気候変動の視点から使われることが多いのですが――，COVID-19 で一番影響を受けた脆弱な立場にいる労働者が雇用を回復するための「公正な移行」において，生涯学習，スキルアップというものが，非常に重要だと思っております。

スキルアップの具体的事例として，たとえば，私の出身である UA ゼンセンでは，在籍出向による雇用維持という取り組みを行いました。自分の今までやっていた仕事と全然違うことをやるというのは本人にとってつらいかもしれませんが，また違う意味でのスキルアップということであって，これも学習のひとつという視点があり得ると思います。

＊郷野晶子（ごうの・あきこ） ILO 労働者側理事・連合参与。1981 年 4 月ゼンセン同盟入局，1998 年 11 月 TWARO（国際繊維被服皮革労組同盟アジア太平洋地域組織）書記長，1999 年 9 月ゼンセン同盟国際局長，2012 年 6 月インダストリオール執行委員代理，2016 年 9 月 UA ゼンセン副会長，2016 年 12 月インダストリオール・グローバルユニオン日本加盟組織協議会事務局長，2017 年 1 月 ILO 理事。

また，COVID-19とは直接関係ありませんが，やはり外せないのはデジタルトランスフォーメーションだと思います。COVID-19以前から，ITといったデジタルトランスフォーメーションの影響が大きいと言われてきました。たとえば2015年には日本の労働人口の約49％の職業が人工知能やロボットで代替え可能という研究も出ております。また別の調査によりますと，中スキルの労働者の雇用がどんどん失われて低スキルに流れる一方，高スキルで求められるスキルのレベルは非常に高くなっていると言われていました。コロナ禍をうけて，この現象が顕著になっていると思われますので，労働者のスキルトレーニングがいっそう重要になっています。

IMF（国際通貨基金）の研究でも，仕事が自動化されるリスクというのは，とくに日本では男女差が大きく，女性の仕事が自動化されるリスクは男性の3.4倍という調査結果が出ております。そういった意味では，より弱い立場にいる人たちの雇用がデジタルトランスフォーメーションによって脅威を受けるということになりますので，そういった人たちに焦点を当てた「公正な移行」のための教育訓練が非常に重要になってくると思います。やはり私どもとしても，誰もが学びたいときに学べる環境を整えるというのが，非常に重要なことだと考えています。

そして，「公正な移行」を実現するためには，やはり政労使の社会対話が重要です。現在も行われていますが，よりいっそう強化して，さきほどの2つのご報告では「下から」という意見がありましたが，まさに，現場の意見を吸い上げることによって，すべての人がスキルアップを図れる機会を作ってほしい。いつでも労働者が教育訓練を受けられるような枠組みをより高度に作っていく必要があると考えます。

本日はこのような機会を与えていただきありがとうございました。